

目次

| | |
|--|-----|
| 田上時子のエッセイ 宮崎勤判決が残した課題…………… | 1 |
| 特集 子どもを暴力の被害者にも加害者にもしないための具体的方法 子どもの成長過程と学習課題の4つの要素から …………… | 2~3 |
| 活動報告 助成金による事業 「スターペアレンティングを学ぶ」…………… | 4 |
| エリザベス・クレアリーさんの きょうだい間の問題を解決するためのスター・ペアレンティング…………… | 5 |
| リレーエッセイ 草間麻子／上村信恵…………… | 6 |
| 講座インフォメーション…………… | 7 |
| 会員の紹介・入会のおさそい…………… | 8 |
| 編集後記…………… | 8 |

田上時子のエッセイ

宮崎勤判決が残した課題

1988年9月に10年間滞在したカナダから帰国した。3ヵ月後に娘4人が誘拐・殺害された「東京埼玉幼女連続殺人事件」が起こった。史上稀にみる残虐な事件であり、今も続く猟奇的であり、小児性愛的である事件の「始まり」であった。

当時、この事件への社会的な反応、子どもへの防止策があまりにも時代錯誤的なものに思えたので、『わたしのからだよ!』を翻訳・出版した。子どもへの性的虐待防止を述べた日本で最初の本だった。

2006年1月17日の最高裁は宮崎被告に責任能力があるとした1・2審判決は正当として「死刑」を言い渡し、長い裁判は終わった。

だが、初公判から16年、いったい何のための裁判だったのかと思うと残念でならない。なぜあのような事件は起こったのか、なぜ幼女が犠牲になったのか、なぜ殺害に至ったのか、あの猟奇的な行動は何だったのか、宮崎被告の家族のあり方はどうだったのか、行動の根底に何があったのかなど、再発防止につながる解明は裁判の経過で何も進まなかった。

子どもが犠牲になる事件が続いている。昨今の防止策を聞いていると、子どもを守るためにはどうしたらいいのか、犯罪者はどうしたら見つけ出せるのかばかりに関心がいつているようで、どのようにして加害者は生み出されるのか、どのようにしたら子どもは自分で自分の安全を確保できるのかという視点が忘れられているように思う。加害者を生み出す要素は家庭だけではない。社会にも問題はあつる。加害者が存在する限り、被害は起こり続ける。

わたしは、子どもを暴力の被害者にも加害者にもしないために、社会の何が問題なのか、大人の私たちに何ができるのか、子どもたちにどんな情報とスキルとサポートを提供すればいいのかを考え続けようと思つている。